

本 庄 ふ る さ と 会 会 報
第 11 号
平成 7 年 9 月 25 日
編集・発行 本 庄 ふ る さ と 会
本 編 集 委 員 会
事 務 局
◇秋田県本庄市出戸町字尾崎17
☎0184(24)3321
◇東京都大田区北馬込
荒川 医 院 内
題 字 後 藤 竹 清



ご紹介ください
会員募集中!!

会の充実と発展・拡大を図るため
新会員を募集しています。親族、知
人等可能な範囲において、本庄市出
身首都圏在住者をご紹介ください。
お問合せ
本庄市総務部企画調整課内
本庄ふるさと会 事務局
☎0184-24-3321 (内) 279

秋田、山形、新潟三県が
丸となった
高速道路の早期建設を要望

本庄ふるさと会役員も出席し
日本海沿岸東北自動車道建設促進大会を開催

新潟を起点とし、東北日本海沿
岸を北上、青森までの延長約三百
四十キロメートルの高速道路とな
る「日本海沿岸東北自動車道」の
建設を促進する大会が八月三十
日、千代田区の砂防会館で開催さ
れました。

この日出席したのは、秋田、山
形、新潟三県から関係者四百五十
名、本庄ふるさと会からも役員六
名が出席し、早期建設実現を目指
して国会議員をはじめ関係者に要
望しました。



第四回 全国市町村交流レガッタ本庄大会
第十六回 市民ボート大会

本庄勢大活躍、全国十七市町村から五十八クルーが集合
を全国に印象づけました。

漕艇場を有する二十三市町村で
組織する「漕艇場所在地市町村協
議会（通称ボートサミット）」が
主催する全国市町村交流レガッタ
は、子吉川漕艇場五百メートルコー
スを会場に、全国の住民クルー
（ナックルフォア）五十八クルー、
選手、役員四百九十人が参加し、
九月二十四日開催されました。

本庄勢は成年女子が三位、壮年
男子二位、同女子が四位、公開種
目の議会議員が一位入賞の大活躍
を見せるなど、ボートのまち本庄



子吉川を力漕する各クルー
バックは建設中の本庄ボートプラザ

一九九六年 本庄ふるさとカレンダー

なつかしいふるさと本庄、毎月の年中行事／風景を楽しんでください

本庄ふるさと会の有志でつくる
「一九九六年本庄ふるさとカレン
ダー」を創る会（代表荒川七郎）
では、ふるさと会会員で本庄市猟
師出身の画家、五島まさを氏が、
これまで書き留めてきた本庄市の
風景や年中行事の水彩画を用いた、
十三枚綴り（表紙を含む）のカレ
ンダーを作成しました。

このカレンダーは本庄市内はも
ちろん十一月十二日に開催される
「ふるさと会総会」の際にも発売
されることになっています。

創る会では本庄市や、本庄市観
光協会に推薦していただき、多く
の皆さんにご利用いただきたくと



裸参り (新山神社)



獅子こ踊り (八幡神社祭典)



山門のある寺 (永泉寺)

本庄ふるさと会親睦バス旅行

初秋の軽井沢に

会員三十一名が参加。親睦と交流を深める

本会恒例の親睦バス旅行は、会
員三十一名の参加を得、初秋の軽
井沢に九月三日、四日の一泊二日
で実施されました。

参加した会員のなかには、この
旅行で初めて顔をあわせる方々も
皆さんは、会員同士の親睦が一
層深まり、楽しい思い出になった
と話していました。

参加された方の旅行記が届きま
したので紹介します。

親睦バス旅行に参加して

佐久間 豊子

今回お友達に誘われて、初めて
親睦バス旅行に参加しました。

参加してみれば皆さん同郷の方々
ばかり（当然）年齢を問わず和
気あいあいでした。高齢の方は田
舎の母と同年代で、思わず方言で
語りかけてしまいました。

ホテルはとても奇麗で部屋も
広々としていました。夜の宴会は



吉田英子さん

六冊目の著書
「刺し子」出版

される

本庄ふるさと会副会長でありま
す吉田英子さんは、この程六冊目
の著書「刺し子」を出版され、四
月十日都内のホテルで出版記念パ
ーティーが開催されました。

この日は本庄市の田村収入役を
はじめ、吉田さんのよき理解者で
ある永六輔さんや、横手市出身の
女性講師師宝井琴桜さんなど来賓
お弟子さん約百五十人が全国から
出席し、吉田さんの「刺し子」出
版を祝いました。

東北が生んだ仕事者の傑作とい
われる「刺し子」は、日本はもと
より世界各国の手芸作家の注目を
集めておりますが、日本の伝統的
な文様のひとつであり「麻の
葉文」に関する吉田さんの研究は
大変深く、日本を代表する手工芸
作家として内外より高い評価を受
けております。

今後、吉田さんのより一層の
ご健勝とご活躍をご期待してお
ります。

本庄 ↔ 秋田空港 直通定期バス運行中

時刻表			
本庄営発	本庄駅前発	岩谷発	秋田空港着
6:55	7:00	7:18	8:10
17:50	17:55	18:13	19:05
秋田空港発	岩谷発	本庄駅前着	本庄営着
8:30	9:22	9:40	9:45
19:20	20:12	20:30	20:35

平成七年度 本庄ふるさと会総会・懇親パーティー

本庄市物産展示即売会も同時開催

とき 平成七年十一月十二日(日)十二時より(物産展は午前十三時より)
ところ 黒 雅 叙 園

会員の健康 (V)

『サツサツと歩こう』



医学博士 庄司 榮 徳 (千葉市在住・裏尾崎町出身)

私がよく知っている彼はそろそろ七十歳ですが、元気で毎日出勤しています。

万歩計をつけているので、聞いてみると、自宅から駅までと電車を降りて会社までの片道が約二千歩、往復で四千歩、これに仕事場での約二千歩を加えると、一日約六千歩と言います。

『目標は？』と聞くと、「一万歩と言いますから、足りないのでは？」と尋ねると、「都内での外回りの仕事はけっこうあり、地下鉄を利用するので、二カ所も歩けば優に一萬歩は超えますよ。」とのことでした。

足りない日は帰ってからのウォーキングで補うのだそうです。

彼の歩き方を見てみると、背すじを伸ばし、軽くあごを引き、やや歩幅を広く、まっすぐサツサツといった感じで歩いていきます。

これは、呼吸量を増し、酸素を取り込みながらの持続的な運動(有酸素運動)をすることをねらっているのだと言います。

目標の脈拍数は、安静時脈拍数と最高脈拍数のちょうど半ば位のところで、次のような計算の仕方があると言います。

最高脈拍数の代わりに、二二〇から自分の年齢を引いた数値を使います。この数値の二分の一を安静時脈拍数に足せば、目標値になります。

「ふるさと」の「だわり」

―秋田空港の観光案内板に思う―

先日私は東京より秋田空港に最終便で降りた。

同行の友人は一便で秋田へ。二人とも本庄へのバス便を利用し、まず感じたことは乗客の少なさである。友人が乗ったときは三人であったとのこと。小生は四人であった。なぜこんなに利用者が少ないのか……。

その第一はPR不足である。バスのPRは勿論のこと、秋田空港での本庄市のPRがほとんど見当たらないことだ。バス停の観光案内板にさえも、本庄市の案内や行事がひとつも書かれていない。(至本庄市だけ) また、秋田県新観光の小冊子(新秋田八景)についても、本庄市の観光PRがほとんど書かれていない。これはやはり県と。

中での本庄市の力不足ではないか。

日本で十七番目に住みやすい都市と云っている割には、何故か全国、全国レベルでの観光PRが少ないように思うのは一人だけでしょうか。

友人は力をこめてこう言っておりまし。

とこの頃は一々測っていないそうだが、最初のころは、数分歩いて立ち止まり、十秒間の脈を測ってチェックしていたそうです。

『歩くのには靴が大事』と常々思っているの、靴は？』と聞くと、やはり選んでいました。

スポーツシューズのメーカーから売り出されている通勤用の靴が気に入っているそうで、よく見ると、底は硬めのスポンジ、革は柔らかく、3Eで足元にゆとりがあります。

この靴に変えてから、第5指の外側にあったタコが自然に消えたとも言っていました。

秋になって時候も爽やかです。彼に負けないよう『一日一万歩』をはじめませんか？

会員の文芸

子吉川

木村 登 志

本庄のものには、どんな時代にも耐えて舞い上がる雲雀のように美しい響きを与えてくれる善兵衛翁の話が私を捉えたのは小学校に上がる年の正月だった

頂上に神社のある新山には本道をそれてうねうね登ると沢山の地蔵や祠があった父は私の手を引いて正月行事の一つであった山の三十三観音巡りをした

一つ一つの石仏や祠の前の雪を払って父は二段重ねの小さな餅とロウソクを添えて手を合わせる父の黒いマントの裾はおじぎする度真白い雪に触れた

「ふるさとの子吉川」(3) 水鳥の浮かぶ美しい子吉川

本庄市社会教育指導員 木谷 豊 四

全長約六十一kmの子吉川流域に生息する鳥たちの種類は上流を除いて実に三十六科百十三種といわれています。

由利は住みよい泊らはれ、の由利小唄を聞く機会もなくなりまして、水鳥たちにとっては、実に住み心地のよい、生活環境に恵まれた美しい子吉川なのです。

ふるさと会の皆様は如何でしょうか。目を瞑ったときに浮かぶ本庄の鳥は何でしょうか。珍しい鳥で心配されているのは「レッドデータブック」でオオセツカとハヤブサは絶滅危急種、コアジサシとツバメチドリは希少種の四種です。帰郷の折には是非南内越の長者屋敷を訪ねてください。道路向いの崖に住むハヤブサが見られます。



会員の催し物

庄司榮朗油絵展

とき 十月十一日(水)から十月十六日(月)まで
午前十時から午後七時三十分(但し最終日は午後五時三十分迄)
ところ 小田急新宿店別館「ハルク」七階 美術サロン
庄司榮朗(よしあき)さんは、ふるさと会の会員で三十一年間に亘り、山を描き続ける山岳画家、裏尾崎町出身、新庄市在住です。

北アルプスを中心にヨーロッパアルプスを加えた二十余点の力作「庄司榮朗の世界」を展覧いたします。

皆さんのおいでをお待ちいたしております。

お問合せ：庄司榮朗さんまで

後藤竹清書展

とき 平成八年一月三十日から二月四日まで
午前十一時から午後七時(最終日は五時まで)
ところ 鳩居堂画廊(3F)
中央区銀座五七七一四
ふるさと会会報の題字をお書きになった後藤先生の第十二回個展です。

第十四回 白峰社書展

とき 平成七年十一月三十日から十二月五日まで
午前十時から午後六時(最終日は五時まで)
ところ 新宿朝日生命ギャラリー
新宿西口新宿センタービル51F
本庄、後藤竹清社中「清芽会」より多数出品します。

ピピピピピ

本庄由利地域に 県立の大学を誘致しよう

「秋田県立総合大学誘致 期成同盟会」が設立

秋田県が設立を計画している県立大学を本庄由利地域に誘致することを目的に、九月二十日「秋田県立総合大学誘致期成同盟会」が設立しました。

この同盟会は本庄市と由利郡内各町の産・学・官の団体代表など、百六十人で組織するもので、設立総会には百五十人が出席し、規約事業計画のほか柳田本庄市長を会長とする役員(案)を満場一致で可決承認しました。

同盟会ではこのあと、県知事は関係機関に強力な誘致の運動を展開することになっています。

子育てのこと

本庄の話しことば

「わだしが息子や娘を育てる頃は、たらいさ座部団敷いで、子供達どご、そごさ入れて、戸口のどごさ置いて自分の仕事をしたもんです。往來に、荷馬車どが秋田・道川さ行く二頭立ての馬車など通るもんだし、子供らは玩具さえあれば、一時間、二時間遊んでるもんであんだ。あじゃこ(子守)も置がねで結構育でだもんです」

肴町 長谷川千代さんから伺った昔のお話
本庄市五軒町 佐藤勲子(主婦)発行「本庄の話しことば」より転載